

ダウカウントの仕方

ダウカウントの基本

- チャートサイズ感を合わせる
- ローソク足の見え方を筋トレ動画を参考に同じにする
- 高安値に引く 何故? そこに損切りが溜まっている=注文の集中が見えるから。
- ひと山のローソク足は最低6本
 - 小さくて4本の時もある
 - 8、10本あるとしっかりひと山として見える
- 直線より曲線
 - 基本は直線でも曲線でもどちらでもいい。しかし、勢いが無い時=トレンド転換の時
 - は絶対曲線がいい
 - 何故? トレンド転換が高安を超える・割る前にダウカウントによって掴みやすい
 - 高値を超えたら下に凸 Uを意識する
 - 安値割ったら上に凸 〇を意識する
- ダウカウント練習

こんな時どうしよう?

- 高安値が見えない
 - よくやってしまいがちなこと
 - 長い一直線に引いてしまう
 - のっぺりガラガラと引いてしまう
 - 大切なことはどこを超えたり・割ったりしたら市場参加者は諦めるのか、という心理を読み取ること
 - 自分ならどこに損切りを置くかを考える(筋トレ動画で答え合わせをして市場参加者と意識を合わせるのが筋トレ)
 - ローソク足20本で1つの波はほぼないと思っちゃう
 - そう見える時は1つ上のダウカウントをしている可能性がある。
- ひげ含む・含まない問題
 - ひげを含んで見ている人も含まないで見ている人もいますので、どちらかに偏って見るのは危ない=これがエントリー直後に逆行する原因の1つ
- ローソク足10本で2山と見る場合がある
 - 高安値と注文の集中どっちを優先させる?という問題
 - 売り勢力と買い勢力がいるという現れなので、トレンド転換した可能性とトレンド継続した可能性の両方のシナリオを考える必要がある。

シナリオ立て

- 自分が今どのエリアにいるのか?
 - これを各時間足でやっていく
- よくある間違い
 - 自分がいるところから押し目買い・戻り売りを狙うシナリオを立ててしまう
- 押しすぎ・戻りすぎ問題
 - 何がリスクなのか?
 - 反対勢力の力が強いという証拠
 - 4時間足の優位性が弱くなるので、他に止まっている示唆が必要
 - 1時間足2番天井・底ネックラインから入るのは検証が必要
- 時間経過が経ちすぎた
 - 反対勢力が潜んでいるという可能性
 - 勢いがあるなら間延びしてても狙い、勢いが無いところは高値切り下げ・安値切り上げの2番天井・底の可能性からトレンド転換を視野に入れる。
 - ただ間延びしている時もあるこの辺りの判断が難しい
- アヤがついたを無視するな
 - 日足の抵抗がある
 - 5波目が早く、そして押し戻されてひげだけになっている
 - こういうひげを無視して次の押し目・戻り目を待ってしまいがちになる
 - ひげがなければ判断がつく
 - 例
 - 5波終わった可能性がある時
 - 自分の見ている方向に2番2番とばかり見ていて、反対勢力の2番を無視する
 - ど鉄板に見えて危ないケース
 - 上位足の節目で2回止められている